

ナルファルト防水標準施工要領(NWW-110-00)

(E-1 E-2 Y-2 工法相当)

適用 屋内(厨房・浴室・便所など)防水層がモルタルで保護される場所に適用する。

種別及び工程

種別	ナルファルト防水NWW-110-00	
工程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2
2	部分 増し張り補強 W200 不織布 WP 貼付	0.2
3	立上り WP 防水剤塗り 不織布張り	0.8
4	床 WP 防水剤塗り 不織布張り	0.8
5	立上り WP 防水剤塗り	1.2
6	床 WP 防水剤塗り	1.2
	ノ口掛けの上 水張り検査	
7	床 絶縁シート張り	
8	床 押さえコンクリート	
9	立上り 保護モルタル塗り	

注意) ナルファルト WP へのセメント混入量について、夏場外気温が上昇して可使用時間が短くなる場合は混入するセメント量を重量比 0.3%まで下げてください。

防水層の下地

防水層の下地は 床コンクリートにて仕上げとする。

立上りコンクリートは、打ち放し仕上げ B 種とする。型枠締付金物のモルタル充填はコンクリート面と同一とする。

床入り隅・立上り入隅は通り良く直角とし、出隅は通り良く面取りとする。

ドレインの種類は 塗膜用とする。

プライマー塗布

プライマー塗りに先立ち、下地の清掃を行い乾燥させる。

ナルファルトプライマー(2kg 入り)をそのまま別の容器にあける。(もしくは WP 15 倍希釈水を電動攪拌機で十分に混練攪拌する。)

塗付けは刷毛・ローラーで1回とし、塗布端末まで均一に塗り付けて乾燥させる。
床・立上りとも塗布する。

増し張り補強

ドレイン・配管等はワイヤーブラシ又は溶剤で防錆剤、錆、油分を除去する。

ドレイン・配管等の金物や衛生陶器等と防水下地との取合い部は ナルストップでシールする。
次の箇所は増し張り補強を行う。

ドレイン・配管等・打継部・床入り隅部・立上り入り隅部・クラック発生部

ナルファルト不織布 W200 を増し張り用とし WP 1kg/m²で貼り付ける。

不織布の重ねは W100 とする。

縦引きドレイン及び配管部は 200 角の不織布を WP 1kg/m²で均等に貼り重ね、その上に金物の縁から 200 以上で 中心を切り取り放射状に 20~30mm の切れ目を入れた不織布を重ね 貼りする。

横引きドレインは W200 の不織布で増し張り補強する。

増し張り補強は床・立上りとも行う。

立上り WP 1 回目塗布と不織布貼付

WP 原液(又は硬化促進の為 原液にセメントを重量比**夏場 0.5 冬場 1%**を同量の水で溶いたノロを混練) を均一に 0.8kg/m² 塗布しながら不織布を張り付ける。

不織布の重ねは W100 とし 間に WP 1kg/m²を塗布して密着させる。

不織布は 浮き・しわ・たるみの無いように貼付し ゴム鏝やローラーで下地の WP を十分含浸するように押える。

立上りや段差の入り隅は、10cm幅程度のゴム製ヘラで押さえ、浮きの無いように下地になじませる。

床 WP 1 回目塗布と不織布貼付

WP 原液(又は原液にセメントを重量比**夏場 0.5 冬場 1%**混練)を均一に 0.8kg/m² 塗布しながら不織布を張り付ける。不織布の重ねは W100 とする。不織布の重ね部には WP を 1mm 厚塗って張り重ねる。

不織布は 強く張って浮かせず、浮き・しわ・たるみの無いように貼付し ゴム鏝やローラーで下地の WP を十分含浸するように押える。不織布の繊維が見えないように規定量をしっかりと塗布する。

乾燥養生

不織布貼付後、一旦 送風機を使用して 通気乾燥を十分に行う。

工程上、2 回目塗布まで 一気に塗布しても良いが、分割する方が乾燥時間を短縮できる。

立上り WP 2 回目塗布

不織布の上から WP 原液(又は原液にセメントを重量比**夏場 0.5 冬場 1%**混練) 1.2kg/m² をゴムこて・ローラー等で均一に塗布する。

床 WP 2 回目塗布

立上り塗布後、引き続き 床を 同様に 塗布する。

乾燥養生

WP2 回目塗布後、送風機を使用して乾燥養生を行う。入り隅や貫通配管下など乾燥に時間の掛かる部位をしっかりと乾燥させる。

水張り検査

水張り検査を実施する際は、直前に防水層にノロ掛けを実施する。

ノロ掛けの範囲は、水張り検査によって水に浸かる部位で 床全面 立上り及び配管の検査水位までとする。

バケツにプライマーの残り(または WP15 倍希釈水)を入れ、3～5%重量の普通セメントを攪拌器で十分に混ぜて作る。(例:10リットル(10kg)の水に 300～500g のセメント粉を混ぜる)

ノロ掛けは、ブラシ等でむら無く塗布する。1回目塗布して乾燥後、2回目を塗布し乾燥させる。特に、入り隅や配管廻りなど、WP が厚付けされて乾燥の遅い箇所は入念に塗布する。

塗布量 0.2～0.4kg/m²程度

防水層完了後、仕上げを施工する前に 防水性能検証のため、水張り検査を実施する。

実施にあたって、給水の方法・検査水位・検査時間・排水の方法を協議する。

ドレインは、止水用の風船等で閉塞する。

給水は静かに行い、水流が防水層に当たらないよう注意する。

下階天井や隣接部への漏水が無いことを目視で確認する。

防水層の保護

立上り保護モルタルの場合

立上りの高さが 400mmを超える場合は、トンボをWPで接着し、ラスを張る。

トンボは、300ピッチの千鳥で配置する。

床 シンダーコンクリート保護の場合

床一面に 絶縁シートを張り並べ、接着テープまたは WP で張り付ける。

絶縁シートに使用する材料は ポリエチレンフィルム(厚さ0.15mm以上)とする。

押さえコンクリート上面に側溝を設ける場合は、立上り端部から 150mm 以上離して設ける。

側溝の仮固定・レベル調整・糸張りはモルタルで行い釘打ちしてはならない。

押さえコンクリートの打設は 共通仕様書に準ずる。

立上りは 打設の飛沫汚損を防止するため、事前に養生する。

シンダーコンクリート上に設備等を加載する場合、設備機器・シンダーコンクリートを含めた

防水上の上載荷重の上限を 1t/m² 未満とする。

注意 ナルファルト WP とシールの相性について

ナルファルト WP は、シール材に含まれる可塑材によって、反応を起こす場合があります。防水下地及び防水後の取合いのシールは 下記の材料を使用してください。

現在、ナルファルト WP と反応しないシール材(可塑材を含まない)製品として、

一成分型弾性エポキシ系シール材の内、

横浜ゴム製 エボソフトN と コニシ製 エフレックス があります。

一成分型ポリウレタンシール材の内

オート化学工業製 オートンシーラー101NB・オートンノンブリードQイック があります。

2成分型ポリウレタンシール材の内

サンスター製 ペンギンシール PU9000NE があります。

ナルファルト WP 取扱のご注意

- 1) ナルファルト WP(以下 WP)は、水性のため低温での保管・施工は凍結による機能低下、品質不良を招く恐れがあります。気温 5 以上で保管・施工を行ってください。
- 2) 施工に際しては、標準施工要領書を良く読んでご理解のうえ施工してください。
- 3) 下地にシーラーを打つ場合は 標準施工要領書に指定するシーラー材もしくは シーラー材メーカーが可塑剤を一切含まないと認めるシーラー材をご使用ください。
WPは、主成分のアスファルトに可塑剤が触れると反応して硬化不良を起こします。ノンブリード型といわれるシーラー材には微弱の可塑剤を含む商品があります。必ず可塑剤を含まないことを確認してください。WPの塗膜にシーラーを打つ場合も同様です。
- 6) 屋内・地下外壁・水槽・ピットなど乾燥に時間がかかる場所に使用するWPには、重量比で夏場 0.5%冬場 1.0%のセメントを必ず混入してください。セメントは同量の清水で溶いてノロにして混合し、攪拌器でよく攪拌してください。セメントノロを混入したWPは乾燥・硬化が速まる為、1 時間以内に使い切ってください。
夏場外気温が上昇して可使用時間が短くなる場合は混入するセメント量を重量比 0.3%まで下げてください。
- 7) WPは、水希釈する(水で薄める)と、機能低下・品質不良(接着力の低下・伸び弾性の低下・乾燥硬化の著しい遅延・膨れの発生・乾燥硬化後の再溶解など)が生じます。
希釈(水で薄める)は一切行なわないで下さい。
WPは、粘度が高く塗りむらが目立ちやすい場合があります。仕上りの美しさよりも機能を優先してそのままご使用ください。露出保護トップ材には骨材が含まれ比較的塗りむらが目立ち難くなります。予めご了承ください。
- 8) 屋外の施工は天気の良い日を選び、塗布後に降雨・降雪・結露・凍結の恐れのある場合は施工を避けてください。翌日に降雨・降雪・凍結の恐れのある場合は、翌朝に十分な乾燥が得られず流出・凍結する恐れがあります。夕方近くの施工を避けてください。
特に日照の得られない北面や通風の無い個所で乾燥の遅延が予想される場合は、前日の施工見合わせを検討してください。
- 9) 塗布量が少ないと十分な性能が得られませんので、標準塗布量を厳守してください。
- 10) 塗布用具は、塗布後直ちに水につけて乾燥硬化を防いで下さい。用具の洗浄は水で行ないます。
使用する際には、水につけた塗装用具は水を切って使用してください。
- 11) 水張り検査や保護トップ材を塗布する前には、WPが十分乾燥したことを確認してください。指触診断法(指に水滴をつけて WP 表面をこすり、再溶解しないことで判定)などをお勧めします。
- 12) 乾燥したWPの表面に乗る場合は、靴底にWPが付着していない靴を履いてください。WP同士が接着して塗布した表面を損傷する恐れがあります。
- 13) 予期せぬ降雨等によってWPが再溶解した場合は、雨上がり後そのまま放置して乾燥硬化を待ってください。溶解(黒色から茶色にもどる)したWPに乗ると、損傷が広がります。十分乾燥硬化した後に、不良箇所再塗布の手直しを行なってください。
- 14) 取扱いに当たっては 製品安全データシート(MSDS)をご覧ください。

以上